

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

1.	文学部	教育 1-1
2.	人文科学府	教育 2-1
3.	比較社会文化学府	教育 3-1
4.	教育学部	教育 4-1
5.	人間環境学府	教育 5-1
6.	実践臨床心理学専攻	教育 6-1
7.	法学部	教育 7-1
8.	法学府	教育 8-1
9.	法務学府	教育 9-1
10.	経済学部	教育 10-1
11.	経済学府	教育 11-1
12.	産業マネジメント専攻	教育 12-1
13.	理学部	教育 13-1
14.	理学府	教育 14-1
15.	数理学府	教育 15-1
16.	システム生命科学府	教育 16-1
17.	医学部	教育 17-1
18.	医学系学府	教育 18-1
19.	医療経営・管理学専攻	教育 19-1
20.	歯学部	教育 20-1
21.	歯学府	教育 21-1
22.	薬学部	教育 22-1
23.	薬学府	教育 23-1
24.	工学部	教育 24-1
25.	工学府	教育 25-1
26.	芸術工学部	教育 26-1
27.	芸術工学府	教育 27-1
28.	システム情報科学府	教育 28-1
29.	総合理工学府	教育 29-1
30.	農学部	教育 30-1
31.	生物資源環境科学府	教育 31-1
32.	統合新領域学府	教育 32-1

システム生命科学府

I	教育水準	教育 16-2
II	質の向上度	教育 16-5

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、システム生命科学専攻のみの編成であり、教育研究上の責任部局を学府の教授会とし、研究指導教員と研究指導補助教員を配置して教育目的の達成を目指している。また、定員充足の適正化にも取り組んでいるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育上の課題は、各講座主任による主任会において検討し、さらに詳細な検討は教育検討ワーキンググループ及び将来構想ワーキンググループで行っている。特にバイオインフォマティクス教育の強化や授業の情報化、さらに教育組織の改組に向けた取組を行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、システム生命科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、システム生命科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 教育内容

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、生物科学と情報科学、工学等の諸科学の融合領域としての「システム生命科学」にふさわしい教育課程を編成しているなどの相応な取組を行っ

ていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、生物科学と情報科学・工学の二つの領域に精通した人材の養成と、他領域を学ぶ困難を軽減したい学生からの要請に応じて、ほとんどすべての科目を基礎と専門の二本立てにするとともに、教育アンケート調査に基づき授業科目編成等の改善をしているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、システム生命科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、システム生命科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

3. 教育方法

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、生命倫理学を必修基礎科目として全学生に履修させている。様々な分野を学んできた学生が円滑に学際教育を受けられるよう、情報科学系、工学系、生命医科学系、分子生命科学系の 4 講座からのカリキュラム提供に加え、学際開拓創成セミナーでは異分野間の共通認識や問題点の認識ができる教育を実施しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、大学院生の自主的な学習を促すために、各授業における課題追求のためのレポートの提出や他の分野の研究者、大学院生との共同研究の推進等、多様な取組を行っているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、システム生命科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、システム生命科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

4. 学業の成果

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位修得率は各年度とも 98%以上であり、留年率、休学率は低水準であるほか、多くの学生が、4 講座が準備する基礎科目群、専門科目群における複数の講座の講義科目を履修しており、ダブルメジャーの資質・能力を身に付けているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成 19 年度に実施した「システム生命科学府自己点検・評価のための学生アンケート」によれば、80%の学生が知識が深くなった、学力が上がったと答えており、90%の学生が講義を理解できると答えているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、システム生命科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、システム生命科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

5. 進路・就職の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、進路状況は、職業別に見ると科学研究者として従事しているものが多数を占め、生物科学と情報あるいは工学という複数の素養を持つ人材が広く受け入れられているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 19 年 12 月に実施した修了生へのアンケート調査によれば、必須基礎科目である「生命倫理学」が評価されており、さらに、回収率は低いですが就職先のアンケート調査によれば、専門分野のみならず関連する分野の知識を身に付けている、自分の考えを導き出す能力があるなど高い評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、システム生命科学府の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、システム生命科学府が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が 1 件、「高い質（水準）を維持している」と判断された事例が 1 件、「相応に改善、向上している」と判断された事例が 1 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。